

ハーグ仏大使館占拠闘争勝利万歳！(一九七四年)

日本赤軍

三名の戦士によるハーグ仏大使館占拠同志奪還闘争は、日本赤軍の同志「フルヤ」を捕虜にすることによって戦う人民の熱い連帯と、地下から地下へと巡る人民の交通網を断ち切ろうとした日帝・仏帝どものたくらみが、わずか一カ月半余りの甘い夢でしかなかったことを彼らに思い知らせた。

同志「フルヤ」の逮捕によって、仏帝は国内の闘う人民の組織を破壊しようとして、卑劣にも極秘の裡に捜査を展開し、またそれを受けて日帝も、国内の地下兵站線を破壊しようとしてヤッキになっていたのである。そして同時に、パレスチナ革命と共闘してきた日本赤軍の歴

史的眞実を歪曲し、パレスチナの革命的人民の闘いの歴史的眞実をも歪曲し、「パレスチナ問題が解決しつつある現在、日本赤軍は孤立し、ヨーロッパでの無展望な闘争を計画していたのだ」などとデマ・キャンペーンに狂奔していたのである。しかし、世界の闘いの現実は、帝國主義者共が考えるほど、国境によって分断され、甘言によって分断されてはいない。今回の闘争によって日本赤軍は、断固として、世界の革命的戦線に次の諸点を明らかにしたのである。

一、帝國主義者に対する闘う人民の陣型は、日々着実に整えられ、日本赤軍をはじめとする世界革命戦争派

は、いつ、いかなるところでも、帝国主義者に対し闘いの火蓋を切ることができるのだという事。

二、しかもそれは、今回のように奪還を予想した敵の警戒網を更に深く越えているのだという事。

三、多くのすぐれた闘争形態がそうであるように、今回の闘争によって日本赤軍は、これまでの幾多の闘いの歴史を継承し、更に一步、大使館占拠という闘争形態を進めた事。この様に、実践の積み重ねによって定着した闘争形態は、不可視の戦線の闘争にイメージを呼び起こさせ、そうした中から戦線相互の連帯と共通の世界観と歴史観を持つに至る。偉大な武装闘争としての言語である。

四、同様に、同志奪還という闘争も世界中の革命の戦線に語りかけ、勇気づける偉大な闘争である。

このように、日本赤軍は、その闘争の歴史の上に、今回の闘争を勝利し、更に、その思想とその闘いの現実と、そしてその方向性を全世界の革命の戦線に対し明らかにしたのである。

今回の闘いによって、帝国主義者どもは、ますます共同した攻撃を組んでくるだろう。しかし、彼らが共同し

た闘いを組めば組むほど、彼ら自身の姿、帝国主義者としての世界性を明らかにするのである。それは、ますます味方の陣型を広げ、世界の革命戦線が一つの戦線として世界帝国主義と対決する、世界史の必然的進歩を、

敵が一步一步はまり込んで行くことを意味している。そして味方の側の陣型は、今回の闘争に対する敵の反撃などはるかに越えて、着実に勝利している。

日本の同志諸君！

日本赤軍の闘いは、戦場こそいかに離れているように思えても、日本の革命の戦列の中で、となりに腕を組んで闘っているのだ。パレスチナは遠く離れた戦場ではない。世界革命は遠い未来のお題目ではない。今、世界の戦線は、抑圧された人民の言葉・武装闘争によって結ばれている。この現実を目をつぶったいかなる革命運動ももはやありえない。

日本赤軍は去って行った軍隊ではない。日本赤軍はパレスチナを進軍し、ヨーロッパを進軍し、アジアを進軍し、そしていつも、日本を進軍しているのである。

ハーグ仏大使館占拠闘争勝利万才！

日本赤軍万才！

世界革命万才！

声明

日本赤軍

声明 1

我々日本赤軍は、オランダの仏大使館での新しい任務・即ち赤軍兵士奪還闘争を宣言する。

(一) この闘争形態は後に続く非妥協の革命闘争の一段階であり我々日本赤軍の革命の総路線である。

これは我々日本赤軍が、何時いかなる处においても世界中の抑圧された人民と共に、世界革命に向けたあらゆる戦線がすでに進行しているということである。

我々は世界革命が達成されるまで、絶え間なく、世界中の戦場で帝国主義者や同様の敵と闘い、前進することをくり返し宣言する。

(二) アラブ人民の資源を奪取するために、世界的帝国主義組織の一派として昇進したシオニストと共謀するフランス・オランダそして日本帝国主義者達は、次の事を知るべきである。

もしあなた方が我々の同志を監禁したとしても、我々はあなた方の手から、確実に彼らを奪還するだろう。た

とえあなた方が一〇人、あるいは一〇〇人の我々の同志

を監禁したとしても、我々は一〇倍、一〇〇倍の結果を

もって報復するだろう。
あなた方が我々の同志・友人に対して卑劣な弾圧を続

ける限り、我々は組織的に、より以上の報復をするだろ

う。
これは我々の闘争の規律であり、革命のモラルである。

(三) 我々の世界中の同志達!!
日常的に人民の同一の敵と戦っている同志達!!
我々は、我々の革命戦争の過程で、仏警察による同志

逮捕という困難な局面の内に、多くの同志・友人達に出

会ったことを心から感謝する。

この事得た教訓を、我々は、より一層確固な世界革

命戦線構築に向けた武装闘争を完成させる進歩とするこ

とを誓う。そして、我々の同志を奪還するための作戦の

勝利が、世界の人民の前に、この誓いの証明として明ら

かになった。
我々は、敵の組織的な妨害策動を背景とする多くの困

難さや、妨害のない前進など有り得ないことを、世界革

命にむけた日常的闘争からの教訓として理解している。

我々の同志奪還闘争万歳!

するよう仏・オランダ・日本帝国主義者達に冗談抜きに

警告する。
我々の警告にもかかわらず、もしあなた方が我々の要

求に応じないならば、我々は更なる攻撃を加えるだろ

う。
あなた方は、あらゆる結果の責任を負うことになるで

あろう。
人質の生命は我々の同志が保護している。しかし、彼

らの運命はあなた方の手中に、我々の要求を履行するか

否かの意志次第である。

あなた方には選択の自由がある。だが我々には正当な

我々の闘争に殉ずる断固たる決意がある。

我々は常にそうして来たし、今もそうである。

我々はこれからもそのようにし続けるだろう。

(三) 世界中の同志・友人達!

シオニストと結託している仏帝国主義者は、公然とあ

るいは隠然と、同じくシオニストと結託しているオラン

ダ帝国主義者に責任を転嫁することで、またオランダへ

同志フルヤを移送し、この様な難問を仏国内から締め出

すことによって、仏の世論を欺こうとしている。

日本帝国主義者もまた、彼らが我々の同志を征服し、

世界革命戦線の進撃万歳!

世界帝国主義打倒!

一九七四年九月一四日

声明2
オランダにおける作戦に関する日本赤軍声明2

日本赤軍は、オランダ大使館の作戦に関して以下の声

明を宣言する。

(一) 我々の革命的行為は、我々の計画書に従って進行し

ている。仏・オランダ・日本帝国主義者敵共は、我々の

勝利や、我々の同志が提出する「新しい諸要求」の主張

をぐずぐずと遅らせることで、我々の作戦貫徹を卑劣な

手段や戦術で失敗に終わらせようと企てている。

三人の同志と同志フルヤユタカは、我々の革命の計画

に従って、また強固な我々の革命的規律とモラルの実践

によって完璧に行動している。

パリの革命的な同志達に対する非妥協的作戦と、(仏

政府に対する) 警告は、共通の敵に対する共通の闘いと

して固く結合し、連帯している事を明らかにしたのであ

る。

(二) 日本赤軍は、我々の同志の要求に従って直ちに行動

囚人として逮捕することを期待しながら仏・オランダと

共謀している。

それでは、世界帝国主義の筆頭、米帝はどうか、ある

いは、仏・オランダ・日本帝国主義へと貫通しているシ

オニズムはどうか、

帝国主義者というものは、どこでも同じだということ

を我々は明確に理解している。

世界中の同志・友人達!
我々の共通の敵を打倒する、我々の闘争を結集しよ

うではないか!
我々の組織された革命的闘争を拡大し、深化させよう

ではないか!
世界革命統一戦線を組織しようではないか!
仏大使館占拠闘争勝利!
世界革命統一戦線に向けた、前段階闘争勝利!
世界革命に向かって前進せよ!

一九七四年九月一六日

声明3
世界中の同志・友人達!
日本赤軍は、オランダにおける作戦(仏大使館占拠)が

勝利であったこと、特に我々の逮捕されていた同志を奪還することに勝利であったことを強調する。また我々は、次の事を宣言しよう。

(一) 全ては作戦通りである。日本赤軍の同志が単独に、革命的方法によって実行した。作戦の妨害や、同志を逮捕した敵・シオニストと同盟し共謀している仏・オランダ・日本帝国主義者の連続的な陰謀やマヌーバーにもかかわらず、それらの企てを見通していた我々の同志は、どんな手がかりも与える事なく、堅固に赤軍兵士のモラルを保持し、最後まで彼らの任務を確固として貫徹した。

(二) この勇敢な作戦を通して、日本赤軍は正面から敵と向かい合う事となった。即ち、敵の銃弾には我々の銃弾で応え、彼らの攻撃には攻撃的な逆襲で対応することである。これは、敵帝国主義者に対する、唯一の革命的な非妥協の路線である。

世界帝国主義組織の軍事警察と、自ら考えている米帝の率いる敵の攻撃は、人民を抑圧し、搾取するばかりでなく、人民の革命的に組織された力をも制圧しようとして、彼らの最後の武器であるあらゆる種類のマヌーバーと策謀を実行している。

世界中の同志・友人達！

敵のあらゆる策謀を壊滅するために、我々は諸経験の教訓・今回の教訓を共有すべきである。

(三) 世界中のブルジョアジー・帝国主義者諸君！

あなた方は、作戦を貫徹した我々の同志が与えた教訓を忘れてはならない。

あなた方は、それ以上空虚さをつのらせるような反革命策動をやめなければならない。

日本赤軍は、今回の作戦の目的を、我々の同志を解放すること、一定程度の報復に限定した。

日本赤軍は、我々の同志を八月中に釈放するように、さもないと同志解放闘争の責任を負うことになるだろう、と仏権力に対して八月中旬に警告を発した。仏権力はこの警告を無視したばかりか、途方もない手段で同志・友人を弾圧し続けた。

敵からのこのような状況のために、我々は革命のルールとモラルに従って攻撃を開始したのである。

(四) 世界の資本主義者諸君！

あなた方が、世界の革命的な同志や人民を弾圧し続ける限り、我々の革命のルールとモラルは、この作戦のみで消耗することはない。それはまた、世界中の抑圧され

た人民の解放が達成されるまで持続し、我々を領導してゆくであろう。

あなた方のデッチ上げたエセ・ヒューマニズムは、帝国主義者のためのもにすぎないことを暴露し、白日のもとにさらすことになるだろう。それは、世界中の被抑圧人民の解放のために闘っている真の正義と、革命的ヒューマニズムによって壊滅するであろう。

(五) 前進せよ！

敵に向かって、より攻撃的な攻撃を貫徹せよ！

世界中の同志・友人達！

我々は、我々の主要なスローガンが、『武装闘争による被抑圧人民の解放』であることを保証する！

我々は、被抑圧者の共通の敵に向かって闘い続けることを証明する！

日本赤軍の同志奮闘作戦勝利万歳！

前進せよ！

世界革命統一戦線を組織せよ！

被抑圧人民解放のための世界革命万歳！

一九七四年九月一八日